

# 台湾総統選挙の行方ー最新現地レポート 10 のポイント

講師 黄文雄先生 [評論家・拓殖大学日本文化研究所客員教授]

- (1) 与野党（緑・藍）両陣営の社会力分析
  - ・国・親両党が牛耳る教育、マスメディア、官僚、司法、警察、黒道、特務、金銭の力
  - ・軍隊と族群（エスニック・グループ）の動向
- (2) 支持勢力の本質と変化の可能性
  - ・台湾人 VS 中国人という構図の国政選挙ではない
  - ・先手の連・宋・王・馬の鉄の連合 VS 後手の副総統未決定のグリーン陣営
- (3) 刻々と変化する予想できない不確定要素
  - ・VCD「非常報道」をめぐる全島大騒動
  - ・黒・白両道を総動員するメディア戦争に学ぶべき教訓
- (4) 人気上昇中の陳水扁総統が再選を賭け逆襲
  - ・「一辺一国」から正名運動、そして台湾新憲法制定発表の道へ
  - ・新中間路線の放棄？ と反扁投票ボイコット罵声の減少
- (5) 五里霧中の勝敗分析
  - ・連宋圧勝論から危機感漂う統一派の焦燥
  - ・15万人正名運動から生まれた独立派の自信
- (6) 日・米・台ハイテク産業関係分析からみた陳水扁再選の勝算
  - ・「唱衰台湾」（台湾だめ説）に歪められた台湾経済の実力
  - ・アメリカが台湾を見捨てられない理由
- (7) 中国の黒い手を警戒すべき
  - ・台湾人には恫嚇が無効と知った中国の次の手は？
  - ・負けたら選挙暴動の最後のあがきもある統一派の最終戦争
- (8) 日本の生命線を守る最終防衛戦争
  - ・21世紀も日台は一蓮托生
  - ・百万人デモから台湾選挙応援へー日台共栄の道をさぐる
- (9) 総統選挙から国家選択への選情変化
  - ・台湾史をかえる歴史的な選択
  - ・21世紀の台湾人の運命を問う国家の選択
- (10) 選挙結果を待つアメリカの対中政策の修正
  - ・アメリカの世界戦略をかえる台湾の総統選挙
  - ・日本も台湾政策の再検討を迫られる

黄文雄（こう ぶんゆう）先生 プロフィール

1938年(昭和13年)、台湾・岡山生まれ。1964年(同39年)に来日。早稲田大学商学部卒業後、明治大学大学院西洋経済史学修士課程修了。『中国の没落』が大反響を呼び評論家活動へ。主な著書に『台湾は日本人がつくった』『中国人の卑劣日本人の拙劣』『台湾 朝鮮 満州 日本の植民地の真実』『日本人が台湾に遺した武士道精神』『中国人が葬った歴史の新事実』など多数。日本李登輝友の会常務理事。